大阪 歯科 保険医新聞

9/5

2018年第1308号

（毎月5、15、25日発行）

大阪府歯科保険医協会
発行人　志岐　敬
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円　月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

待合室キャンペーン　小澤力理事長が呼びかけ

クイズチラシ・患者署名にご協力を

安倍政権が医療・介護を含めた社会保障改悪を打ち出す中、協会・保団連は誰もが安心して医療にかかれるよう「患者負担増反対、医療改善を求める待合室キャンペーン」に取り組んでいる。小澤力理事長がクイズチラシの活用と患者署名への協力を呼びかけている。

会員の先生方には日頃から協会活動にご協力いただきありがとうございます。また、大阪北部地震および西日本豪雨災害で被害に遭われた先生方に改めてお見舞い申し上げます。

今年4月の診療報酬改定では、僅かながら本体プラス改定を実施させ、保団連・保険医協会の改善要望が一部で実現しました。

しかし、医療、介護、年金、生活保護などの社会保障全体を見れば、第2次安倍政権発足以来、社会保障費の自然増を5000億円程度に抑えるという基本方針のもと、削減ありきの社会保障大改悪が実行されてきました。この間、医療・介護では、保険料アップと窓口・利用料負担増が車の両輪として押し進められてきました。年1兆円程度だった社会保障の自然増は、18年度で6300億円にまで圧縮されています。私たち歯科医療の現場に格差と混乱を持ち込み、医療機関の経営を危うくしているのは、まさにこうした予算削減ありきの社会保障改悪です。

今年5月、政府が2040年に社会保障費が190兆円になると発表し、マスコミ各社が大々的に報道しました。しかし、試算の根拠を見ると「GDPは500兆円から800兆円に急増し、現在31万円の平均月給が50万円になる」など、前提があまりにも不自然です。安倍政権は、ありえない数字で世論をミスリードし、社会保障削減や消費増税を実行しようとしています。

しかし、来年は一斉地方選挙と参議院選挙があります。患者負担軽減や医療改善を願う国民・患者世論を結集し、安倍政権に突き付ける事で、改悪を阻止できます。

患者署名と、医療改悪の内容を分かりやすく知らせるクイズチラシをお手元に送付しています。2つを同時に取り組むことで、より多くの患者さんの声を集めやすくなっています。ぜひご協力をお願いします。

ポスター・署名　今号同封

患者負担増反対、医療改善を求めるポスターと署名を今号に同封しています。クイズチラシは別途送付いたします。

特別寄稿　今の沖縄

沖縄県保険医協会会長　仲里　尚実

翁長雄志沖縄県知事の急逝にともなう知事選が13日告示、30日投開票で実施される。沖縄の思いを県保険医協会・仲里尚実会長に特別寄稿してもらった。

「翁長知事が辺野古埋め立て承認の撤回に向けた手続きを取る」との記者会見のニュースが飛び込んできた。県民には待ちに待った知事の「撤回宣言」である。もちろん国・安倍政権が強権と策略でこれを潰しにかかることは目に見えている。だが、闘う県民は「腹を括った」。しかし、途端に翁長知事「急逝」との衝撃のニュースが8月8日に沖縄中に流れた。

その3日後の11日、辺野古埋め立てに反対する県民集会が開催され、台風の影響での小雨降り続く中、7万人の県民が結集した。私も「沖縄県・保険医協会」のブルーの腕章をつけて参加した。すべての登壇者が、翁長知事がつくり上げた「オール沖縄」の力を結集し辺野古埋め立てを阻止するという決意を語った。誰もめげてはいない。参加者は熱気を放っていた。8月29日には、玉城デニー氏が「オール沖縄」の候補として決まり、沖縄県知事選勝利への準備も整った。

先日の午後、3カ月ぶりに辺野古を訪れた。大阪から来た卒後2年目研修医を案内しながらであった。ゲート前で瀬長和男さん（瀬長亀次郎の孫）と出会った。彼は週2日、ゲート前に座り込み、市民のリーダーとして奮闘している。「午前中に2回、砂利積載ダンプが入って行った。機動隊にいつものごとく市民は排除されたが、最近私は拘束されなくなった」と明るく語る。機動隊が排除に来ると道路の反対側に彼は移り、ハンドスピーカーで座りこみ部隊を励ます。最近まで機動隊員は道路を渡り、すぐに彼を拘束した。拘留されたこともある。

続いてテント村に行った。たまたま三上知恵さんがいた。「標的の村」「戦場の止み」の監督だ。最新作の「沖縄スパイ戦史」の上映協力依頼があり、私と前日に会ったばかりである。東京出身でもう20年以上沖縄に住んでいる。笑顔でテント村の常駐住人とおしゃべりをしている。

私は少々反省した。平和と民主主義を守る闘いの最前線にいる人たちは皆明るい。特に沖縄ではそうだ。5カ月も拘留されたゲート前指導者の山城博治さんも今は講演で全国を飛び回っている。

沖縄県保険医協会は毎年総会決議で「普天間基地の即時撤去、辺野古新基地建設反対」を掲げている。沖縄県民の命と暮らし、尊厳を守る立場から、「沖縄協会有志の会」を4年前と同様に立ち上げ、この方針を明確にした玉城氏を押し上げたい。全国の保険医協会・有志に訴えたい。沖縄の苦難の闘いはまだ続く。皆さんの連帯と支援が不可欠だ。

連帯と支援が不可欠

カヌーによる新基地抗議行動（撮影／フォトジャーナリスト・新藤健一氏）

堺市　子ども医療

高卒に助成拡充

協会の要請実る

竹山修身堺市長は8月8日、定例会見で2019年4月から子ども医療費の助成対象を15歳年度末から18歳年度末に拡充することを表明した。9月議会で可決される見通し。

定例会見で子ども医療の対象拡大を表明する竹山堺市長＝8月8日、堺市庁舎

政令市初

所得制限なしで18歳年度末まで入・通院ともに助成するのは政令市では初めてとなる。協会は、これまで子ども医療費助成の拡充を求めてきた。17年堺市長選挙時には医科協会とともに竹山市長と懇談し、18歳年度末までの対象拡大と窓口負担の無償化を求めた。竹山市長は、要望を受け、同助成の18歳年度末までの対象拡大を公約に掲げて3選を果たした。定例会見では公約実現に向け開始時期を明らかにした。

厚労省調査では、全国で6割の市町村が、助成の対象を15歳年度末までとしている。対象の拡大は全国で進んでおり、対象を18歳年度末までとする市町村は3割に迫る。また、窓口負担を無償とする市町村も6割を超え、増え続けている。一方、大阪府内では、15歳年度末までがスタンダードにはなりつつあるが、窓口負担を無償化した市町村はない。

協会紙が基地反対の力に

協会紙を紹介する山城博治沖縄平和運動センター議長（左）（撮影／フォトジャーナリスト・新藤健一氏）

米軍新基地建設現場の辺野古・大浦湾の貴重な自然を紙上写真展で紹介した協会機関紙夏季特集号（8月15日付）が、現地で大きな反響を呼んでいる。辺野古で2000部を配布すると、8月22日には市民グループが県庁を訪れ、同紙を提出して埋め立て承認の即時撤回を迫った。新基地反対運動の力になっている。

歯界

沖縄の旧盆の風物詩・エイサー。旧盆明けの最初の週末には、県内各地の青年会が沖縄市に集結する。勇壮な太鼓の音や、真剣な演舞が胸を打つ夏の人気イベントだ。

「全島エイサーまつり」は、旧盆の最終日に先祖をあの世に送り出す意味で行われていたが、最近では旧盆の期間中毎日行われる場合もある。今から400年以上前、浄土宗が琉球に伝来した頃に広まった念仏踊りを起源とし、沖縄独自のスタイルとなっていった。

地域の集落単位で団体（青年会）を結成し、数十人から多いところでは100人以上が属している。団内では旗頭、大太鼓、締太鼓、三線などで構成される。中でも京太郎（チョンダラー）は白塗りで道化師のように客を盛り上げつつも、周りを見て冷静にコントロールする司令塔などの役割がある。

今沖縄は、辺野古新基地建設問題に揺れている。翁長知事の意志を継ぐチョンダラーを見守りたい。

協会直通番号のご案内

保険請求のご相談や年金・休業保障制度のお問い合わせは直通番号をご利用ください。

社保研究部　06-6568-7467
共　済　部　06-6568-7438